



Enigma Variations

Edward Elgar

エルガー 作曲 エニグマ変奏曲

主題、ソロ、曲の終わりでクラリネットが大活躍
でもなにより「ニムロッド」の響きを味わって!



首席クラリネット奏者

吉野 亜希菜

Akina Yoshino

エルガーというと「威風堂々」のイメージが強いですが、「エニグマ変奏曲」を初めて聴いたとき、こんなにも華やかな音使い、美しい響き、メロディがあるのかと驚きました。エルガーはこの作品で有名となったそうで、主題と14の変奏からなる素敵な曲です。

「エニグマ」の意味は「謎」。各変奏はエルガーの友人たちを描いています。初演当初はそれが誰なのか「謎」でした。さらには、最初に登場する主題のほかに、演奏されることのないある主題によって変奏曲は展開しているようで、しかしそれを明かすことなくエルガーは亡くなったという、永遠の「謎」を秘めた作品です。

主題は、最初が弦楽器、次にクラリネットが、対照的な楽句を奏します。クラリネットのフレーズは光が差ししてくるようで、曲の開始から「聴きどころ」と言える美しい音楽です。

主題だけでなく、「エニグマ変奏曲」ではクラリネットが要所を演奏します。第1変奏でも主題を演奏し、最後はクラリネットのソロで終わり、第2変奏の最後もクラリネット。というようにクラリネット

トは、メロディも、ソロも、曲の終わりも吹きます。クラリネットの音色は人の声に近いと言われますが、ゆえにエルガーはこんなに様々な表現をクラリネットに求めたのかもしれません。

「エニグマ変奏曲」といえば、最も有名な第9変奏「ニムロッド」です。「エニグマ変奏曲」は室内乐的に演奏する変奏が多いなか、「ニムロッド」はオーケストラ全体が鳴り、その雄大な響きがとても美しく心に沁みます。この変奏はエルガーの親友アウグスト・イエーガーを描いたもの。親友にこんなにも美しい曲を書くなんて……グツときますね。

第10変奏は「間奏曲（ドラベツラ）」と題された曲で、彼女が口もつている感じをオーボエとクラリネットが表現します。ということはお、オーボエと揃えないほうがいい。なんて思ったり、人を描いた曲となると表現の幅が広がるので面白いです。

第13変奏「ロマンツァ」はクラリネットから始まり、途中でソロも演奏します。そのソロは、メンデルスゾーンの前曲「静かな海と楽しい航海」からの引用というのが興味

味深いですよ。この変奏だけ誰を描いたのか不明で、一説によればオセアニアへ渡った女性を描いているとか。このソロは、遠くで鳴っているような音色で表現できたらと思います。

私は友人を色でイメージすることはありましたが、「エニグマ変奏曲」を知ってからは、この曲は誰のイメージかと考えるようになりました。皆さんも周囲の人を考えたながら「エニグマ変奏曲」を聴くと楽しいかもしれません。私にも第9変奏「ニムロッド」を当てはめたい友人がいますが、皆さんはどうですか？

9月の「名曲全集」は、最初と最後に変奏曲を演奏するプログラム。その中で皆さんには「エニグマ変奏曲」の第9変奏「ニムロッド」を、ミューザの響きでぜひ味わっていただきたいです。オーケストラのつくり出す「ニムロッド」のあんなにも美しい響きのおかげで、「エニグマ変奏曲」は単なる変奏曲ではなく、特別な変奏曲になったのです。初来日のライアン・ウィグルスワースの指揮での「エニグマ変奏曲」、そして「ニムロッド」をどうぞお楽しみに!



楽譜出版社に勤務し、エルガーの親友となったアウグスト・イエーガー。「エニグマ変奏曲」第9変奏「ニムロッド」は彼を描いた曲です。

ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団

名曲全集 第149回

The Masterpiece Classics Series No.149

2019年9月29日 14:00開演

指揮&ピアノ：ライアン・ウィグルスワース
ピアノ：ポール・ルイス

- ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲 作品56a
- モーツァルト：2台のピアノのための協奏曲 K.365
- ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19※
- エルガー：エニグマ変奏曲

※当初予定の曲目から変更になりました。

■料金 S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥4,000 C ¥3,000
当